

第 50 期

事業報告

(2018年度)

自 平成30年 4 月 1 日
至 平成31年 3 月31日



公益財団法人
内藤記念科学振興財団

〔Ⅰ〕第50期（平成30年度）事業概要

内藤記念科学振興財団は、昭和44年4月7日付け、委大第4の1号をもって文部大臣より設立の許可を受けて、定款に定められた諸事業を開始した。平成30年4月1日から平成31年3月31日に至る第50期（平成30年度）の事業活動として、定款第3条に掲げる、「人類の疾病の予防と治療に関する自然科学」の研究を奨励し、もって学術の振興と人類の福祉に寄与することを目的として、定款第4条に基づき下記の諸事業を行った。

1. 第50期（平成30年度）の事業について

平成30年度は、以下の事業を実施した。

（1）公募事業

①科学振興賞（褒賞）（定款第4条第1項第2号）

科学振興賞は、当財団が定めた日本遺伝学会ほか計32の学会（長）、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼し、21件の候補を受け付け、選考委員会で審査した後、理事会において受賞2件を決定した。

②科学奨励金・研究助成（定款第4条第1項第1号）

科学奨励金・研究助成は、420件の申請を受け付け、80件を採択した。

③科学奨励金・若手ステップアップ研究助成（定款第4条第1項第1号）

科学奨励金・若手ステップアップ研究助成は、2件の申請を受け付け、1件を採択した。平成28年度および29年度からの継続分それぞれ3件を合わせ、合計7件を助成した。

④女性研究者研究助成金（定款第4条第1項第1号）

女性研究者研究助成金は、出産や育児によって研究を中断した女性研究者の研究職場への復帰と研究業績向上の支援を目的として設立された。平成30年度は96件の申請を受け付け、20件を採択した。平成28年度および平成29年度からの継続分それぞれ20件を合わせ、合計60件を助成した。

⑤次世代育成支援研究助成金（定款第4条第1項第1号）

平成28年度より、次世代の基礎研究者育成を支援するため、新たに次世代育成支援研究助成金を創設した。本年度は109件の申請を受け付け、10件を採択した。平成28年度および平成29年度からの継続分それぞれ10件を合わせ、合計30件を助成した。

⑥海外研究留学助成金（定款第4条第1項第4号）

海外研究留学助成金は、94件の申請を受け付け、10件を採択した。

⑦海外学者招聘助成金（定款第4条第1項第5号）

海外学者招聘助成金は、12件の申請を受け付け、9件を採択した。

以上、②～⑦までの6事業については、全国の国立・公立・私立大学など700余の自然科学系研究機関の長、ならびに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼した。なお、⑦の海外学者招聘助成金については、この他に当財団が定めた32学会（長）にも推薦を依頼した。受領者の採択は、選考委員会での審査・選考を経た後、理事会で決定されたものである。

⑧講演助成金（定款第4条第1項第7号）

当財団が定めた32の学会（長）、並びに当財団の理事・監事・評議員に候補者の推薦を依頼し、国際会議の開催時期に応じて、四半期毎に年4回申請を受理した結果、30件を受け付け、選考担当理事4名および選考委員長で構成される審査会で審議の上、常務理事が決裁し、29件を採択した。

⑨特定研究助成金（定款第4条第1項第1号）

令和元年度に開催される第47回内藤コンファレンス『C-H結合の活性化と変換』の組織委員5人に900万円、第48回内藤コンファレンス『感覚系サイエンスの最前線－痛覚、痒覚、嗅覚、味覚』の組織委員5人に900万円、合計10人に総額1,800万円を助成した。

公募助成金の応募件数と採択件数、平成30年度支払った助成金額は次のとおりである。

助成金の実績

科 目	申請数	採択件数	採択率	予 算	贈呈額
科学振興賞（含金メダル）	21 ^件	2 ^件	10%	21,200,000 ^円	21,291,896 ^円
科学奨励金・研究助成	420	80	19	240,000,000	240,000,000
科学奨励金・若手ステップアップ研究助成	2	1	50	30,000,000	2,500,000
（平成29年度からの継続分）	3	3	100		10,300,000
（平成28年度からの継続分）	3	3	100		5,600,000
女性研究者研究助成金	96	20	21	120,000,000	40,000,000
（平成29年度からの継続分）	20	20	100		40,000,000
（平成28年度からの継続分）	20	20	100		40,000,000
次世代育成支援研究助成金	109	10	9	60,000,000	20,000,000
（平成29年度からの継続分）	10	10	100		20,000,000
（平成28年度からの継続分）	10	10	100		20,000,000
海外研究留学助成金	94	10	11	45,000,000	45,000,000
海外学者招聘助成金	12	9	75	10,000,000	5,300,000
講演助成金	30	29	97	10,000,000	14,350,000
特定研究助成金	10	10	100	19,000,000	18,000,000
合 計	860	237	30	555,200,000	542,341,896

以上、公募9事業において、申請860件に対して237件を採択し、総額542,341,896円を助成した。なお、上記助成額に加えて、科学奨励金・若手ステップアップ研究助成は2,590万円、女性研究者研究助成金は1億2,000万円の次年度以降の支払いが、すでに確定している。

全ての助成金の受領者一覧表を 添付資料 として巻末に掲載した。

（2）助成事業以外の事業

① 講演事業（定款第4条第1項第7号）

a. 第45回内藤コンファレンスの開催結果

平成30年6月26日（火）午後から6月29日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレーゼ ガトーキングダム サッポロにおいて、東京理科大学生命医科学研究所 松島綱治教授を組織委員長として、第45回内藤コンファレンス『がん免疫療法の免疫分子基盤－次世代のがん免疫療法をめざして』を開催した。本コンファレンスの平成30年度費用総額は2,849万円であった。

b. 第46回内藤コンファレンスの開催結果

平成30年10月2日（火）午後から10月5日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレーゼ

ガトーキングダム サッポロにおいて、総合研究大学院大学 長谷川真理子学長を組織委員長として、第46回内藤コンファレンス『生物進化の仕組みと多様性』を開催した。本コンファレンスの平成30年度費用総額は2,904万円であった。

c. 第47回内藤コンファレンスの開催準備

令和元年7月2日（火）午後から7月5日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレゼ ガトーキングダム サッポロにおいて、大阪大学大学院工学研究科 茶谷直人教授を組織委員長として、第47回内藤コンファレンス『C-H 結合の活性化と変換』を開催するため、組織委員会を編成しプログラムをまとめた。開催準備費用として、平成30年度は96万円を支出した。

d. 第48回内藤コンファレンスの開催準備

令和元年10月8日（火）午後から10月11日（金）正午まで、北海道札幌市 シャトレゼ ガトーキングダム サッポロにおいて、九州大学 井上和秀理事・副学長を組織委員長として、第48回内藤コンファレンス『感覚系サイエンスの最前線 — 痛覚、痒覚、嗅覚、味覚』を開催するため、組織委員会を編成しプログラムをまとめた。開催準備費用として、平成30年度は81万円を支出した。

e. 令和元年度以降の内藤コンファレンス開催準備

令和元年度以降に開催を計画する内藤コンファレンスの開催準備を開始した。その開催準備として、53万円を支出した。

f. 平成30年度開催の第45回内藤コンファレンス、第46回内藤コンファレンスそれぞれ6件ずつの優秀ポスター賞を選出のうえ、記念品を授与した。その費用として、24万円を支出した。

② 内藤記念くすり博物館での企画展示（定款第4条第1項第6号）

理事会での承認を得て、内藤記念くすり博物館での資料収集・展示事業として企画展『くすり創りの歴史』を開催し、開催費用として400万円を支出した。

③ 広報誌「内藤財団時報」の発行（定款第4条第1項第8号）

本誌発行の目的は、当財団の設立趣旨と研究助成事業等の活動内容を公表し、大学・研究機関等およびご支援を受けた寄附者などの多くの関係者に、当財団への理解を促すとともに、定期的に活動内容のレビューを行うことにより、多方面からの継続的な支援を願うことにある。第102号（平成30年9月6日）および第103号（平成31年3月19日）を発行し、寄附者、全国の研究機関、当財団の役員等関係者、助成金受領者、報道関係、他財団等に配布した。

*『内藤財団時報』第102号……………B5判92頁、2,150部、101万円

*『内藤財団時報』第103号……………B5判116頁、2,250部、114万円

合計215万円を支出した。

2. 事業報告附属明細書

平成30年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当するものがない。